

連結財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当行の連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表については、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2018年度末 2019年3月31日現在	2019年度末 2020年3月31日現在
(資産の部)		
現金預け金	55,747,048	59,991,835 ※8
コールローン及び買入手形	2,665,744	1,246,739
買現先勘定	5,082,709	8,243,182
債券貸借取引支払保証金	1,440,159	957,271
買入金銭債権	4,582,886	4,550,644
特定取引資産	2,452,825	4,133,816 ※8
金銭の信託	0	0
有価証券	23,469,621	26,282,649 ※1,8,16
貸出金	79,792,401	84,280,613 ※3,4,5,6,7,8,9
外国為替	1,715,759	2,057,887 ※7
リース債権及びリース投資資産	247,835	219,733
その他資産	3,571,248	4,647,291 ※8
有形固定資産	1,409,802	1,341,895 ※10,11,12
賃貸資産	573,292	506,755
建物	308,990	305,799
土地	421,156	417,640
リース資産	2,597	7,345
建設仮勘定	22,561	15,192
その他の有形固定資産	81,203	89,163
無形固定資産	375,389	320,622
ソフトウェア	274,116	272,870
のれん	12,003	—
リース資産	11	2
その他の無形固定資産	89,259	47,750
退職給付に係る資産	324,672	226,273
繰延税金資産	23,399	26,147
支払承諾見返	8,121,131	7,898,071
貸倒引当金	△332,343	△335,041
資産の部合計	190,690,293	206,089,633

(単位：百万円)

科目	2018年度末 2019年3月31日現在	2019年度末 2020年3月31日現在
(負債の部)		
預金	123,190,830	127,623,995 ※8
譲渡性預金	11,335,486	10,330,435
コールマネー及び売渡手形	572,778	2,920,539
売現先勘定	8,743,386	10,691,772 ※8
債券貸借取引受入担保金	680,051	829,729 ※8
コマーシャル・ペーパー	2,291,813	1,409,249
特定取引負債	1,818,610	3,459,117
借入金	15,988,948	21,820,785 ※8,13
外国為替	1,196,960	1,492,634
社債	2,955,282	1,942,291 ※14
信託勘定借	1,352,773	1,811,355 ※8,15
その他負債	2,929,172	5,032,050
賞与引当金	34,283	36,494
役員賞与引当金	1,249	1,236
退職給付に係る負債	4,457	4,114
役員退職慰労引当金	669	617
ポイント引当金	468	388
睡眠預金払戻損失引当金	7,936	4,687
繰延税金負債	446,993	381,605
再評価に係る繰延税金負債	30,259	30,111 ※10
支払承諾	8,121,131	7,898,071 ※8
負債の部合計	181,703,543	197,721,284
(純資産の部)		
資本金	1,770,996	1,770,996
資本剰余金	1,966,353	1,966,291
利益剰余金	3,743,614	3,622,140
自己株式	△210,003	△210,003
株主資本合計	7,270,960	7,149,425
その他有価証券評価差額金	1,426,493	1,125,808
繰延ヘッジ損益	△47,281	103,609
土地再評価差額金	36,531	36,870 ※10
為替換算調整勘定	24,371	△48,969
退職給付に係る調整累計額	△5,446	△88,577
その他の包括利益累計額合計	1,434,667	1,128,741
新株予約権	2,210	—
非支配株主持分	278,910	90,182
純資産の部合計	8,986,749	8,368,349
負債及び純資産の部合計	190,690,293	206,089,633

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日
経常収益	3,369,898	3,469,068
資金運用収益	2,240,944	2,237,626
貸出金利息	1,481,622	1,485,144
有価証券利息配当金	354,451	340,553
コールローン利息及び買入手形利息	16,561	15,865
買現先利息	36,101	54,336
債券貸借取引受入利息	2,512	1,047
預け金利息	101,030	79,068
リース受入利息	6,378	7,307
その他の受入利息	242,285	254,303
信託報酬	4,541	4,701
役務取引等収益	613,741	614,134
特定取引収益	80,112	157,531
その他業務収益	225,361	258,749
賃貸料収入	44,732	43,409
割賦売上高	8,600	2,268
その他の業務収益	172,028	213,072
その他経常収益	205,196	196,323
貸倒引当金戻入益	35,622	—
償却債権取立益	647	1,697
その他の経常収益	168,926	194,626 ※1
経常費用	2,475,397	2,698,577
資金調達費用	1,138,789	1,186,005
預金利息	463,791	441,411
譲渡性預金利息	136,178	131,851
コールマネー利息及び売渡手形利息	14,586	10,540
売現先利息	122,755	135,924
債券貸借取引支払利息	959	941
コマーシャル・ペーパー利息	45,356	31,525
借入金利息	197,488	215,283
社債利息	87,594	67,206
その他の支払利息	70,078	151,322
役務取引等費用	162,563	179,925
特定取引費用	4,430	—
その他業務費用	79,991	90,269
賃貸原価	26,296	26,514
その他の業務費用	53,694	63,755
営業経費	1,009,410	1,057,690 ※2
その他経常費用	80,212	184,685
貸倒引当金繰入額	—	38,437
その他の経常費用	80,212	146,248 ※3
経常利益	894,501	770,491
特別利益	2,788	1,273
固定資産処分益	502	1,273
その他の特別利益	2,285	—
特別損失	8,833	61,313
固定資産処分損	4,260	1,425
減損損失	4,573	59,887 ※4
税金等調整前当期純利益	888,456	710,451
法人税、住民税及び事業税	165,371	184,642
法人税等調整額	54,107	△1,778
法人税等合計	219,479	182,864
当期純利益	668,976	527,586
非支配株主に帰属する当期純利益	51,483	9,836
親会社株主に帰属する当期純利益	617,493	517,750

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日
当期純利益	668,976	527,586
その他の包括利益	△120,740	△305,464 ※1
その他有価証券評価差額金	△78,282	△300,099
繰延ヘッジ損益	27,672	166,083
土地再評価差額金	—	△39
為替換算調整勘定	12,682	△67,110
退職給付に係る調整額	△67,113	△83,402
持分法適用会社に対する持分相当額	△15,698	△20,896
包括利益	548,236	222,122
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	500,124	211,445
非支配株主に係る包括利益	48,111	10,676

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,770,996	1,970,412	3,451,151	△210,003	6,982,557
当期変動額					
剰余金の配当		△4,059	△325,332		△329,392
親会社株主に帰属する 当期純利益			617,493		617,493
土地再評価差額金の取崩			302		302
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△4,059	292,463	—	288,403
当期末残高	1,770,996	1,966,353	3,743,614	△210,003	7,270,960

(単位：百万円)

	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日								
	その他の包括利益累計額						新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,509,249	△66,918	37,042	12,710	60,463	1,552,547	—	555,298	9,090,403
当期変動額									
剰余金の配当									△329,392
親会社株主に帰属する 当期純利益									617,493
土地再評価差額金の取崩									302
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△82,756	19,636	△510	11,660	△65,910	△117,879	2,210	△276,387	△392,056
当期変動額合計	△82,756	19,636	△510	11,660	△65,910	△117,879	2,210	△276,387	△103,653
当期末残高	1,426,493	△47,281	36,531	24,371	△5,446	1,434,667	2,210	278,910	8,986,749

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,770,996	1,966,353	3,743,614	△210,003	7,270,960
当期変動額					
剰余金の配当			△637,702		△637,702
親会社株主に帰属する 当期純利益			517,750		517,750
連結子会社の減少に伴う減少			△945		△945
持分法適用の関連会社の減少に 伴う減少			△139		△139
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		△61			△61
土地再評価差額金の取崩			△435		△435
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△61	△121,473	—	△121,535
当期末残高	1,770,996	1,966,291	3,622,140	△210,003	7,149,425

(単位：百万円)

	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日								
	その他の包括利益累計額						新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,426,493	△47,281	36,531	24,371	△5,446	1,434,667	2,210	278,910	8,986,749
当期変動額									
剰余金の配当									△637,702
親会社株主に帰属する 当期純利益									517,750
連結子会社の減少に伴う減少									△945
持分法適用の関連会社の減少に伴う減少									△139
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動									△61
土地再評価差額金の取崩									△435
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△300,685	150,891	338	△73,340	△83,130	△305,926	△2,210	△188,727	△496,865
当期変動額合計	△300,685	150,891	338	△73,340	△83,130	△305,926	△2,210	△188,727	△618,400
当期末残高	1,125,808	103,609	36,870	△48,969	△88,577	1,128,741	—	90,182	8,368,349

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	888,456	710,451
減価償却費	134,854	144,473
減損損失	4,573	59,887
のれん償却額	5,430	723
段階取得に係る差損益 (△は益)	△2,285	—
持分法による投資損益(△は益)	△44,772	△24,683
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△63,850	5,740
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,414	2,804
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△70	△9
退職給付に係る資産負債の増減額	△30,594	98,473
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△2	△31
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△498	△79
睡眠預金払戻損失引当金の増減額(△は減少)	△9,828	△3,249
資金運用収益	△2,240,944	△2,237,626
資金調達費用	1,138,789	1,186,005
有価証券関係損益(△)	△99,263	△141,980
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△0	△0
為替差損益(△は益)	△170,680	113,166
固定資産処分損益(△は益)	3,757	152
特定取引資産の純増(△)減	△5,085	△1,802,142
特定取引負債の純増減(△)	△137,628	1,744,254
貸出金の純増(△)減	△3,402,879	△4,789,036
預金の純増減(△)	5,267,321	4,780,581
譲渡性預金の純増減(△)	△138,017	△1,002,400
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	1,908,235	4,927,392
有利息預け金の純増(△)減	1,442,331	△1,293,689
コールローン等の純増(△)減	△4,238,962	△1,801,898
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	2,121,947	482,888
コールマネー等の純増減(△)	3,346,382	4,344,047
コマーシャル・ペーパーの純増減(△)	△95,377	△882,878
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△2,644,841	149,677
外国為替(資産)の純増(△)減	447,784	△344,749
外国為替(負債)の純増減(△)	289,580	296,397
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	1,776	17,309
普通社債発行及び償還による増減(△)	△351,613	△883,204
信託勘定借の純増減(△)	24,502	458,581
資金運用による収入	2,186,546	2,249,898
資金調達による支出	△1,097,776	△1,205,861
その他	△57,415	421,471
小計	4,377,466	5,780,859
法人税等の支払額	△191,397	△170,142
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,186,068	5,610,716

(単位：百万円)

区分	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日	2019年度 自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△26,550,624	△35,538,242
有価証券の売却による収入	17,941,452	23,196,970
有価証券の償還による収入	10,080,463	9,548,349
金銭の信託の増加による支出	△0	△0
金銭の信託の減少による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△72,843	△70,006
有形固定資産の売却による収入	7,143	15,476
無形固定資産の取得による支出	△87,527	△85,486
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△57,182	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	21,145
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,260,881	△2,911,791
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入れによる収入	—	1,355,101
劣後特約付借入金返済による支出	△8,000	△43,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△23,499	△78,000
配当金の支払額	△325,332	△637,702
非支配株主への払戻による支出	△212,537	△173,000
非支配株主への配当金の支払額	△51,257	△4,919
財務活動によるキャッシュ・フロー	△620,628	418,479
現金及び現金同等物に係る換算差額	165,536	△74,321
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,991,857	3,043,082
現金及び現金同等物の期首残高	47,088,226	52,080,083
現金及び現金同等物の期末残高	52,080,083	55,123,166 ※1

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 111社

主要な会社名

株式会社SMBC信託銀行
Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited
三井住友銀行(中国)有限公司
PT Bank BTPN Tbk
SMBC Americas Holdings, Inc.
SMBC信用保証株式会社

当連結会計年度より、4社を新規設立により連結子会社としております。

また、SMMオートファイナンス株式会社他6社は株式売却等により子会社でなくなったため、当連結会計年度より連結子会社から除外しております。

(2) 非連結子会社

該当ありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

(2) 持分法適用の関連会社 64社

主要な会社名

株式会社関西みらいフィナンシャルグループ

当連結会計年度より、1社を新規設立により持分法適用の関連会社としております。

また、10社は清算等により、当連結会計年度より持分法適用の関連会社から除外しております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社

該当ありません。

(4) 持分法非適用の関連会社

主要な会社名

Park Square Capital / SMBC Loan Programme S.à r.l.
持分法非適用の関連会社の当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。

10月末日	2社
12月末日	62社
3月末日	47社

(2) 10月末日を決算日とする連結子会社は1月末日現在、一部の12月末日を決算日とする連結子会社については3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社については、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。

連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という)の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日等において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち株式(外国株式を含む)については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

② 金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記(1)及び(2)①と同じ方法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(賃貸資産及びリース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
その他	2年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。

② 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び国内連結子会社における利用可能期間(5年～10年)に基づいて償却しております。

③ 賃貸資産

主にリース期間又は資産の見積耐用年数を償却年数とし、期間満了時の処分見積価額を残存価額とする定額法により償却しております。

④ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

(5)貸倒引当金の計上基準

当行及び主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

当行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうちと信託一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績又は倒産実績を基礎とした貸倒実績率又は倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

また、直近の経済環境やリスク要因を勘案し、過去実績や個社の債務者区分に反映しきれない、特定のポートフォリオにおける蓋然性の高い将来の見通しに基づく予想損失については、総合的な判断を踏まえて必要と認められる金額を計上しております。

特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当勘定として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は110,496百万円であります。

(6)賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7)役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員(執行役員を含む、以下同じ)への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(8)役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当連結会計年度末の要支給額を計上しております。

(9)ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、「SMBCポイントパック」におけるポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積もり、必要と認める額を計上しております。

(10)睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(11)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、主として給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用

その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

(12)外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

また、連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

(13)リース取引等に関する収益及び費用の計上基準**①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準**

受取利息相当額を収益として各期に配分する方法によっております。

②オペレーティング・リース取引の収益の計上基準

主に、リース期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

③割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準

主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

(14)重要なヘッジ会計の方法**①金利リスク・ヘッジ**

当行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。

小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という)に規定する繰延ヘッジを適用しております。相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしてしております。個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしてしております。

②為替変動リスク・ヘッジ

当行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という)に基づく繰延ヘッジを適用しております。これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していることを条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

③株価変動リスク・ヘッジ

当行は、その他有価証券から生じる株価変動リスクを相殺する個別ヘッジについては時価ヘッジを適用しており、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

④連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カパー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の連結子会社において、繰延ヘッジ又は時価ヘッジあるいは金利スワップの特例処理を適用しております。

(15)のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、20年以内のその効果の発現する期間にわたり均等償却しております。ただし、金額に重要性の乏しいものについては発生年度に全額償却しております。

(16)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金、無利息預け金及び日本銀行への預け金であります。

(17)消費税等の会計処理

当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(18)連結納税制度の適用

当行及び一部の国内連結子会社は、株式会社三井住友フィナンシャルグループを連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

<未適用の会計基準等>

1.「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等(2018年3月30日、改正2020年3月31日)

(1)概要

当該会計基準等は、国際的な動向を踏まえて定められた収益認識に関する包括的な会計基準等であり、約束した財又はサービスの顧客への移転を、当該財又はサービスと交換に企業が権利を得ると見込む対価の額で描写するように、収益を認識することを原則としております。

(2)適用予定日

当行は、当該会計基準等を2021年4月1日に開始する連結会計年度の期首から適用する予定であります。

(3)当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は、評価中であります。

2.「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号)等(2019年7月4日)

(1)概要

当該会計基準等は、国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、時価の算定方法に関するガイダンス等を定めたものであります。

(2)適用予定日

当行は、当該会計基準等を2020年4月1日に開始する連結会計年度の期首から適用する予定であります。

(3)当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は、評価中であります。

3.「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号)(2020年3月31日)

(1)概要

当該会計基準は、当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、連結財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2)適用予定日

当行は、当該会計基準を2021年3月31日に終了する連結会計年度の年度末から適用する予定であります。

4.「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号)の改正(2020年3月31日)

(1)概要

当該会計基準は、関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的に改正されたものです。

(2)適用予定日

当行は、当該会計基準を2021年3月31日に終了する連結会計年度の年度末から適用する予定であります。

<追加情報>

1.新型コロナウイルス感染症の影響拡大に係る貸倒引当金の見積りについて

新型コロナウイルス感染症の影響拡大に係る貸倒引当金の見積りについては、次の方法により連結財務諸表に反映しております。債務者の業績や資金繰りの悪化等、個別の債務者に関連して発生することが予想される損失については、入手可能な直近の情報に基づき、必要に応じて債務者区分の見直しを行うことにより貸倒引当金に計上しております。

また、個社の債務者区分に反映しきれない、特定のポートフォリオにおける蓋然性の高い将来の見通しに基づく予想損失については、新型コロナウイルス感染症等を起因とした原油価格等のマーケット指標の変動が及ぼす影響等、総合的な判断を踏まえて必要と認められる金額を貸倒引当金に計上しております。

2.連結納税制度からグループ通算制度への移行

2020年3月31日に公布された「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)により、2022年4月1日以後開始する連結会計年度から、連結納税制度はグループ通算制度に移行することとされましたが、株式会社三井住友フィナンシャルグループを連結納税親会社とする連結納税制度を適用している当行及び一部の国内連結子会社は、当連結会計年度においては、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)に基づき、改正前の税法の規定を前提とした会計処理を行っております。

(連結貸借対照表関係)

- ※1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額
- | | |
|-----|------------|
| 株式 | 564,636百万円 |
| 出資金 | 661百万円 |
- なお、関連会社の株式のうち共同支配企業に対する投資の金額は次のとおりであります。
- | | |
|--|----------|
| | 8,637百万円 |
|--|----------|
2. 無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引等により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券、再貸付けに供している有価証券及び当連結会計年度末に当該処分をせずに所有している有価証券は次のとおりであります。
- | | |
|-----------------------------|--------------|
| (再)担保に差し入れている有価証券 | 8,637,517百万円 |
| 再貸付けに供している有価証券 | 12,281百万円 |
| 当連結会計年度末に当該処分をせずに所有している有価証券 | 1,598,165百万円 |
- ※3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
- | | |
|--------|------------|
| 破綻先債権額 | 13,964百万円 |
| 延滞債権額 | 327,080百万円 |
- なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※4. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。
- | | |
|------------|----------|
| 3カ月以上延滞債権額 | 7,036百万円 |
|------------|----------|
- なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
- | | |
|-----------|------------|
| 貸出条件緩和債権額 | 137,542百万円 |
|-----------|------------|
- なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
- | | |
|-----|------------|
| 合計額 | 485,623百万円 |
|-----|------------|
- なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
- | | |
|--|------------|
| | 850,324百万円 |
|--|------------|

- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
現金預け金	78,112百万円
特定取引資産	84,979百万円
有価証券	10,502,767百万円
貸出金	10,679,243百万円

担保資産に対応する債務

預金	21,908百万円
売現先勘定	6,379,529百万円
債券貸借取引受入担保金	778,373百万円
借入金	10,587,419百万円
信託勘定借	432,135百万円
支払承諾	103,886百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

現金預け金	12,543百万円
特定取引資産	67,393百万円
有価証券	3,570,617百万円
貸出金	10,350百万円

また、その他資産には、金融商品等差入担保金、保証金、先物取引差入証拠金及びその他の証拠金等が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

金融商品等差入担保金	1,975,824百万円
保証金	58,215百万円
先物取引差入証拠金	8,549百万円
その他の証拠金等	575百万円

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	58,272,231百万円
うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	40,692,750百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 当行は、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

また、一部の持分法適用の関連会社も同法律に基づき事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

当行

1998年3月31日及び2002年3月31日

一部の持分法適用の関連会社

1999年3月31日、2002年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法
 当行

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等、合理的な調整を行って算出。

一部の持分法適用の関連会社

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

※11. 有形固定資産の減価償却累計額	
減価償却累計額	658,073百万円
※12. 有形固定資産の圧縮記帳額	
圧縮記帳額	62,099百万円
(当該連結会計年度の圧縮記帳額	一百万円)
※13. 借入金には、劣後特約付借入金が含まれております。	
劣後特約付借入金	7,653,175百万円
※14. 社債には、劣後特約付社債が含まれております。	
劣後特約付社債	562,774百万円
※15. 信託勘定借には、信託勘定が発行する債権担保付社債(カバードボンド)に関連した信託勘定からの借入金が含まれております。	
債権担保付社債(カバードボンド)に	432,135百万円
関連した信託勘定からの借入金	
※16. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額	1,616,454百万円
17. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。	
金銭信託	10,693百万円

(連結損益計算書関係)

※1. その他の経常収益には、次のものを含んでおります。	
株式等売却益	148,635百万円
※2. 営業経費には、次のものを含んでおります。	
給料・手当	415,384百万円
減価償却費	124,499百万円
※3. その他の経常費用には、次のものを含んでおります。	
株式等償却	43,901百万円
株式等売却損	28,681百万円
※4. 以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。	

(単位：百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	営業用店舗 21ヵ店	土地、建物等	2,180
	遊休資産 71物件		1,188
近畿圏	営業用店舗 7ヵ店	土地、建物等	769
	遊休資産 50物件		998
国内 その他	営業用店舗 5ヵ店	土地、建物等	456
	遊休資産 16物件		531
米州	貨車リース資産	賃貸資産	13,805
—	—	のれん及びその他の無形固定資産	39,958

土地、建物等について、当行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグルーピングの最小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休資産については、物件ごとにグルーピングの単位としております。また、連結子会社については、各営業拠点をグルーピングの最小単位とする等の方法でグルーピングを行っております。

遊休資産等について、投資額の回収が見込まれない場合に、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は、主として正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した評価額から処分費用見込額を控除する等により算出しております。賃貸資産については、貨車の種類ごとにグルーピングを行っております。当連結会計年度は、一部の貨車について投資額の回収が見込まれなくなったため、当該貨車の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は使用価値としており、将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算出しております。

のれん及びその他の無形固定資産については、主として連結子会社単位でグルーピングを行っております。当連結会計年度は、株式会社SMBC信託銀行において、足許の市場環境を踏まえた将来キャッシュ・フローの見直しの結果、プレスティア事業に係るのれん及びその他の無形固定資産の帳簿価額の回収が見込まれなくなったため、当連結会計年度末におけるのれん及びその他の無形固定資産の未償却残高全額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は使用価値としており、将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算出しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位：百万円)

その他有価証券評価差額金：	
当期発生額	△185,993
組替調整額	△213,813
税効果調整前	△399,806
税効果額	99,706
その他有価証券評価差額金	△300,099
繰延ヘッジ損益：	
当期発生額	128,854
組替調整額	109,971
税効果調整前	238,825
税効果額	△72,742
繰延ヘッジ損益	166,083
土地再評価差額金：	
当期発生額	—
組替調整額	—
税効果調整前	—
税効果額	△39
土地再評価差額金	△39
為替換算調整勘定：	
当期発生額	△67,126
組替調整額	15
税効果調整前	△67,110
税効果額	—
為替換算調整勘定	△67,110
退職給付に係る調整額：	
当期発生額	△123,729
組替調整額	5,391
税効果調整前	△118,337
税効果額	34,935
退職給付に係る調整額	△83,402
持分法適用会社に対する持分相当額：	
当期発生額	△20,424
組替調整額	△471
税効果調整前	△20,896
税効果額	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△20,896
その他の包括利益合計	△305,464

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに
自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結 会計年度 期首株式数	当連結 会計年度 増加株式数	当連結 会計年度 減少株式数	当連結 会計年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	106,248,400	—	—	106,248,400
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	106,318,401	—	—	106,318,401
自己株式				
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	70,001	—	—	70,001

2. 新株予約権に関する事項
該当ありません。

3. 配当に関する事項

- (1)当連結会計年度中の金銭による配当金支払額

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	150,128	1,413

※決議：2019年6月27日 定時株主総会
基準日：2019年3月31日
効力発生日：2019年6月28日

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	487,573	4,589

※決議：2019年11月12日 取締役会
基準日：2019年9月30日
効力発生日：2019年11月25日

- (2)基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発
生日が翌連結会計年度となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	44,411	418

※決議：2020年5月15日 取締役会
配当の原資：利益剰余金
基準日：2020年3月31日
効力発生日：2020年5月18日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- ※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記され
ている科目の金額との関係

現金預け金勘定	59,991,835百万円
日本銀行への預け金を除く有利息預け金	△4,868,669百万円
現金及び現金同等物	55,123,166百万円

(リース取引関係)

1.ファイナンス・リース取引

- (1)借手側

- ①リース資産の内容

- (ア)有形固定資産

主として、店舗及び事務システム機器等であります。

- (イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

- ②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方
針に関する事項」の「(4)固定資産の減価償却の方法」に記載の
とおりであります。

- (2)貸手側

- ①リース投資資産の内訳

(単位：百万円)

リース料債権部分	258,052
見積残存価額部分	47,285
受取利息相当額	△85,604
合計	219,733

- ②リース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収予定額
(単位：百万円)

1年以内	26,938
1年超2年以内	26,318
2年超3年以内	23,880
3年超4年以内	16,453
4年超5年以内	13,612
5年超	150,848
合計	258,052

2.オペレーティング・リース取引

- (1)借手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未
経過リース料

(単位：百万円)

1年以内	1年超	合計
27,425	187,309	214,734

- (2)貸手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未
経過リース料

(単位：百万円)

1年以内	1年超	合計
31,297	70,974	102,271

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当行グループでは、銀行業務を中心とした金融サービスに係る事業を行っております。うち、銀行業務としては、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務等を行っております。

当行グループでは、これらの事業において、貸出金、債券、株式等の金融資産を保有するほか、預金、借入金、社債等による資金調達を行っております。また、顧客のヘッジニーズに対応する目的のほか、預貸金業務等に係る市場リスクをコントロールする目的(以下、「ALM目的」)や、金利・通貨等の相場の短期的な変動を利用して利益を得る目的(以下、「トレーディング目的」)で、デリバティブ取引を行っております。なお、当行では、ALM目的の取引は市場資金部及び市場運用部、トレーディング目的の取引は市場営業部(アジア・大洋州地域においてはALM目的・トレーディング目的共にアジア・大洋州トレジャリー部、東アジア地域においてはALM目的・トレーディング目的共に東アジアトレジャリー部)が行っております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

①金融資産

当行グループが保有する主な金融資産は、国内外の法人向けや国内の個人向けの貸出金及び国債や社債等の債券や国内外の株式等の有価証券であります。国債等の債券につきましては、ALM目的のほか、トレーディング目的、満期保有目的等で保有しております。また、株式につきましては、政策投資を主な目的として保有しております。これらは、それぞれ貸出先、発行体の財務状況の悪化等に起因して当該資産の価値が減少・減失する信用リスクや金利、為替、株価等の相場が変動することにより損失を被る市場リスク、市場の流動性の低下により適正な価格で希望する量の取引が困難となる市場流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

②金融負債

当行グループが負う金融負債には、預金のほか、借入金、社債等が含まれます。預金は、主として国内外の法人と国内の個人預金であり、借入金及び社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金や劣後特約付社債が含まれております。金融負債についても、金融資産と同様に、市場リスクのほか、市場の混乱や信用力の低下等により資金の調達が困難となる資金流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

③デリバティブ取引

当行グループで取り扱っているデリバティブ取引には、先物・外国為替取引、金利、通貨、株式、債券、商品に係る先物取引、先渡取引、スワップ取引、オプション取引及びクレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引等があります。デリバティブ取引に係る主要なリスクとしては、市場リスク、取引相手の財務状況の悪化等により契約が履行されなくなり損失を被る信用リスク、市場流動性リスク等があります。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

なお、ALM目的で取り組むデリバティブ取引につきましては、必要に応じてヘッジ会計を適用しておりますが、当該ヘッジ会計に関するヘッジ手段、ヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジの有効性の評価方法等につきましては、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.会計方針に関する事項 (14)重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

当行は、グループ全体のリスク管理に関する基本的事項を「統合リスク管理規程」として制定しております。同規程に基づき、経営会議が「グループ全体のリスク管理の基本方針」を決定し、取締役会の承認を得る体制としており、グループ各社においては、この基本方針に基づき、業務の特性に応じたリスク管理体制を構築しております。

①信用リスクの管理

当行においては、グループ各社がその業務特性に応じた信用リスクを統合的に管理すること、個別与信や与信ポートフォリオ全体の信用リスクを定量的かつ経常的に管理することなどに関する基本原則を定め、グループ全体の信用リスク管理の徹底を図っております。

(イ)信用リスクの管理体制

当行では、信用リスク管理の基本方針等の重要な事項につきましても、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。

リスク管理部門の投融資企画部が、クレジットポリシー、行内格付制度、与信権限規程、稟議規程の制定及び改廃、不良債権管理を含めた与信ポートフォリオの管理等、信用リスクの管理・運営を統括するとともに、リスク統括部と協働して、信用リスクの計量化(リスク資本、リスクアセットの算定)を行い、銀行全体の信用リスク量の管理を行っております。

また、投融資企画部の部内室のCPM室では、クレジットデリバティブや貸出債権の売却等を通じて与信ポートフォリオの安定化に努めております。

業務部門においては、各部門内の所管審査部が中心となって、与信案件の審査、与信ポートフォリオの管理等を行っております。与信の実行権限は、与信先の格付別の金額基準をベースとした体系とし、信用リスクの程度が大きい与信先・与信案件については審査部で重点的に審査・管理を行っております。また、融資管理部が、主に破綻懸念先以下に区分された与信先に対する債権の圧縮のための方策の立案、実施に努めているほか、企業調査部が、産業・業界に関する調査や個別企業の調査等を通じて主要与信先の実態把握や信用悪化懸念先の早期発見に努めております。

更に、機動的かつ適切なリスクコントロール並びに与信運営上の健全なガバナンス体制確保を目的とする協議機関として、各部門を横断する「信用リスク委員会」を設置しております。

なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、資産内容の健全性、格付・自己査定との正確性、信用リスク管理体制の適切性についての内部監査を行い、経営会議や監査等委員会等に監査結果の報告を行っております。

(ロ)信用リスクの管理方法

当行では、個別与信あるいは与信ポートフォリオ全体のリスクを適切に管理するため、行内格付制度により、与信先あるいは与信案件ごとの信用リスクを適切に評価するとともに、信用リスクの計量化を行うことで、信用リスクを定量的に把握、管理しております。また、融資審査や債務者モニタリングによる個別与信の管理に加え、与信ポートフォリオの健全性と収益性の中期的な維持・改善を図るため、次のとおり適切な信用リスクの管理を行っております。

・自己資本の範囲内での適切なリスクコントロール

信用リスクを自己資本対比許容可能な範囲内に収めるため、内部管理上の信用リスク資本の限度枠として「信用リスク資本極度」を設定しております。その極度に基き、業務部門別にガイドラインを設定し、定期的にその遵守状況をモニタリングしております。

・集中リスクの抑制

与信集中リスクは、顕在化した場合に銀行の自己資本を大きく毀損させる可能性があることから、特定の業種に過度の信用リスクが集中しないように管理を行うとともに、大口与信先に対する上限基準値の設定や重点的なローンレビューの実施等を行っております。また、各国の信用力の評価に基づき、国別の与信枠を設定し、カントリーリスクの管理を実施しております。

・企業実態把握の強化とリスクに見合った収益の確保

企業実態をきめ細かく把握し、信用リスクに見合った適正な収益を確保することを与信業務の大原則とし、信用コスト、資本コスト及び経費控除後収益の改善に取り組んでおります。

・問題債権の発生の抑制・圧縮

問題債権や今後問題が顕在化する懸念のある債権につきましては、ローンレビュー等により対応方針やアクションプランを明確化したうえで、劣化防止・正常化の支援、回収・保全強化策の実施等、早期の対応に努めております。

なお、一部のファンドに対する出資や証券化商品、クレジットデリバティブ等、間接的に社債や貸付債権等の資産(裏付資産)のリスクを保有する商品は、市場で売買されることから、裏付資産の信用リスクとともに市場リスク・市場流動性リスクを併せ持つ商品であると認識しております。こうした商品に関しては、裏付資産の特性を詳細に分析・評価して信用リスクの管理を行う一方、当該商品の市場リスク等につきましては、市場リスク・流動性リスク管理の体制の中で、網羅的に管理しております。また、それぞれのリスク特性に応じ各種ガイドラインを設定し、損失を被るリスクを適切に管理しております。

デリバティブ取引の信用リスクにつきましては、時価に基づく信用リスク額を定期的に算出し、適切に管理しております。取引の相手方が取引を頻繁に行う金融機関である場合には、倒産等により取引相手が決済不能となった場合に各種の債権債務を一括清算することが可能となる一括清算ネットティング契約を締結するなど、信用リスクを抑制する運営を行っております。

(2)市場リスク・流動性リスクの管理

当行においては、リスク許容量の上限を設定し定量的な管理をすること、リスク管理プロセスに透明性を確保すること、フロント、ミドル、バックの組織的な分離を行い、実効性の高い相互牽制機能を確保することなどを基本原則として、グループ全体の市場リスク・流動性リスク管理を行っております。

(イ)市場リスク・流動性リスクの管理体制

当行では、市場リスク・流動性リスク管理の基本方針、リスク管理枠等の重要な事項につきましては、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。

また、市場取引を行う業務部門から独立した前記のリスク統括部が市場リスク・流動性リスクを一元管理する体制を構築しております。同部は、リスク状況をモニターするとともに、定期的に経営会議や監査等委員会等に報告を行っております。

更に、月次でALM委員会を開催し、市場リスク・流動性リスクの枠の遵守状況の報告及びALM運営方針の審議等を行っております。

なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、これらのリスク管理体制の適切性についての内部監査を行い、経営会議や監査等委員会等に監査結果の報告を行っております。

(ロ)市場リスク・流動性リスクの管理方法

・市場リスクの管理

当行では、市場取引に関する業務運営方針等に基づき、自己資本等を勘案して定める「リスク資本極度」の範囲内で、「VaR(バリュー・アット・リスク：対象金融商品が、ある一定の確率の下で被る可能性のある予想最大損失額)」や損失額の上限值を設定し、市場リスクを管理しております。

なお、当行では、VaRの計測にヒストリカル・シミュレーション法(過去のデータに基づいた市場変動のシナリオを作成して損益変動シミュレーションを行うことにより最大損失額を推定する手法)を採用しております。バンキング業務(貸出金・債券等の資産、預金等の負債に係る金利・期間等のコントロールを通じて利益を得る市場業務)及びトレーディング業務(市場価格の短期的な変動や市場間の格差等を利用して利益を得る市場業務)につきましては、4年間のデータに基づき、1日の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。政策投資株式(上場銘柄等)の保有につきましては、10年間のデータに基づき、1年の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。

また、為替変動リスク、金利変動リスク、株価変動リスク、オプションリスクなど市場リスクの各要素につきましては、「BPV(ベシス・ポイント・バリュー：金利が0.01%変化したときの時価評価変化額)」など、各要素のリスク管理に適した指標に対して上限値を設定し、管理しております。

・市場リスクに係る定量的情報

当連結会計年度末日における当行及びその他の主要な連結子会社のVaRの合計値は、バンキング業務で496億円、トレーディング業務で64億円、政策投資株式(上場銘柄等)の保有で8,082億円であります。

なお、これらの値は前提条件や算定方法等の変更によって異なる値となる統計的な値であり、将来の市場環境が過去の相場変動に比して激変するリスクを捕捉していない場合があります。

・流動性リスクの管理

当行では、「リスクアベタイト指標の管理水準の設定」及び「コンティンジェンシープランの策定」の枠組みで資金流動性リスクを管理しております。リスクアベタイト指標とは、テイクするあるいは許容するリスクの種類を選定して、その水準を定量的に表した指標であり、指標の一つとして、預金流出等のストレス状況下においても資金繰りを維持することが可能な日数に下限を設定し、その指標に抵触しないように調達手段の確保に努めていくことで、短期の資金調達に過度に依存することを回避しております。加えて、緊急時に備えて指示・報告系統やアクションプランを取りまとめたコンティンジェンシープランを策定しております。

また、市場性商品やデリバティブ取引等に係る市場流動性リスクにつきましては、通貨・商品、取引期間等を特定した拠点別の取引限度額を設定するとともに、金融先物取引等につきましては、保有建玉を市場全体の未決済建玉残高の一定割合以内に限定するなどの管理を行っております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

2.金融商品の時価等に関する事項

(1)2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、その他有価証券中の非上場株式等時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品((3)参照)や子会社株式及び関連会社株式は含めておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金預け金 ^{(注)1}	59,987,172	59,988,585	1,412
② コールローン及び買入手形 ^{(注)1}	1,244,743	1,246,463	1,720
③ 買現先勘定	8,243,182	8,242,870	△311
④ 債券貸借取引支払保証金 ^{(注)1}	957,257	957,293	36
⑤ 買入金銭債権 ^{(注)1}	4,547,995	4,579,485	31,489
⑥ 特定取引資産			
売買目的有価証券	392,919	392,919	—
⑦ 金銭の信託	0	0	—
⑧ 有価証券			
満期保有目的の債券	282,379	282,519	140
その他有価証券	25,049,269	25,049,269	—
⑨ 貸出金	84,280,613		
貸倒引当金 ^{(注)1}	△236,332		
	84,044,280	85,565,727	1,521,446
⑩ 外国為替 ^{(注)1}	2,055,578	2,058,324	2,745
⑪ リース債権及びリース投資資産 ^{(注)1}	219,548	218,858	△690
資産計	187,024,326	188,582,316	1,557,989
① 預金	127,623,995	127,631,525	7,529
② 譲渡性預金	10,330,435	10,337,496	7,060
③ コールマネー及び売渡手形	2,920,539	2,920,628	88
④ 売現先勘定	10,691,772	10,691,772	—
⑤ 債券貸借取引受入担保金	829,729	829,729	—
⑥ コマーシャル・ペーパー	1,409,249	1,409,249	—
⑦ 特定取引負債			
売付商品債券	181,987	181,987	—
⑧ 借入金	21,820,785	21,917,151	96,365
⑨ 外国為替	1,492,634	1,492,634	—
⑩ 社債	1,942,291	2,027,438	85,146
⑪ 信託勘定借	1,811,355	1,824,319	12,964
負債計	181,054,776	181,263,931	209,155
デリバティブ取引 ^{(注)2}			
ヘッジ会計が適用されていないもの	444,998	444,998	—
ヘッジ会計が適用されているもの	294,853	294,853	—
デリバティブ取引計	739,852	739,852	—

(注)1.貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、現金預け金、コールローン及び買入手形、債券貸借取引支払保証金、買入金銭債権、外国為替並びにリース債権及びリース投資資産に対する貸倒引当金につきましては、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

2.特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

なお、デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目につきましては、()で表示しております。

(2)金融商品の時価の算定方法

資産

①現金預け金、②コールローン及び買入手形、③買現先勘定、④債券貸借取引支払保証金、⑤貸出金、⑩外国為替並びに⑪リース債権及びリース投資資産

これらの取引のうち、満期のない預け金や返済期限の定めのない当座貸越等につきましては、当該取引の特性により、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

また、残存期間が6カ月以内の短期の取引についても、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、主として帳簿価額をもって時価としております。

残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の調整を加えたレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。一部の連結子会社においては、約定金利により算出した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に信用リスク・プレミアム等を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。

なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等につきましては、貸倒見積高を担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額、又は将来キャッシュ・フローの見積額の現在価値等に基づいて算定していることから、時価は連結貸借対照表計上額から貸倒見積高を控除した金額に近似しているため、当該価額をもって時価としております。

⑤買入金銭債権

買入金銭債権のうち、住宅ローン債権流動化に伴う劣後信託受益権につきましては、当該流動化に伴う信託における住宅ローン債権等の資産評価額から優先受益権等の評価額を差し引いた価額をもって時価としております。その他の取引につきましては、原則として⑨貸出金と同様の方法等により算定した価額をもって時価としております。

⑥特定取引資産

トレーディング目的で保有する債券等の有価証券につきましては、原則として当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

⑦金銭の信託

金銭の信託につきましては、原則として、信託財産である有価証券を⑧有価証券と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

⑧有価証券

原則として、株式(外国株式を含む)につきましては当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均をもって時価としております。公募債等、株式以外の市場価格のある有価証券につきましては、当連結会計年度末日の市場価格を基に算定した価額をもって時価としております。

変動利付国債につきましては、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号)を踏まえ、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定した価額をもって時価としており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティ(変動性)が主な価格決定変数であります。市場価格のない私募債等につきましては、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の調整を加えたレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。ただし、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先の私募債等につきましては、貸出金と同様に、当該債券の帳簿価額から貸倒見積高を控除した金額をもって時価としております。また、公募投資信託につきましては公表されている基準価格、私募投資信託等につきましては証券会社等より入手する基準価格又は純資産価格より算定した価額をもって時価としております。

負債

①預金、②譲渡性預金及び⑩信託勘定借

要求払預金、満期のない預り金等につきましては、帳簿価額を時価とみなしております。また、残存期間が6カ月以内の短期の取引につきましては、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、将来キャッシュ・フローの見積額を、新規に当該同種預金を残存期間まで受け入れる際に用いるレートで割り引いた現在価値をもって時価としております。なお、信託勘定が発行する債権担保付社債(カバードボンド)に関連した信託勘定からの借入金につきましては、業界団体等より公表されている価格を基に算定した価額をもって時価としております。

③コールマネー及び売渡手形、④売現先勘定、⑤債券貸借取引受入担保金、⑥コマーシャル・ペーパー、⑧借入金並びに⑩社債

残存期間が6カ月以内の短期の取引につきましては、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、将来キャッシュ・フローの見

積額を、市場における同種商品による残存期間までの再調達レートで割り引いた現在価値をもって時価としておりますが、一部商品につきましては、業界団体等より公表されている価格を基に算定した価額、または公表されている利回り情報等から算出した割引率によって割り引いた現在価値のいずれかをもって時価としております。

⑦特定取引負債

トレーディング目的で行う売付債券等につきましては、原則として、当該債券等の当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

⑨外国為替

他の銀行から受入れた外貨預り金等満期のない預り金につきましては、帳簿価額を時価とみなしております。また、外国為替関連の短期借入金等の時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

デリバティブ取引

取引所取引につきましては、取引所等における最終の価格をもって時価としております。店頭取引のうち、金利・通貨・株式・債券及びクレジットデリバティブにつきましては、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した価額をもって時価としております。また、商品関連デリバティブ取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定した価額をもって時価としております。

(3)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	2020年3月31日現在
有価証券	
非上場株式等 ^{(注)1(注)3}	146,581
組合出資金等 ^{(注)2(注)3}	239,120
合計	385,702

(注)1.非上場株式等につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。
2.市場価格のない出資金等であります。組合等への出資のうち、組合の貸借対照表及び損益計算書を純額で取り込む方法により経理しているものについての出資簿価部分を含んでおります。
3.非上場株式及び組合出資金等について、当連結会計年度において22,301百万円減損処理を行っております。

(4)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預け金	59,122,349	26,037	5,413	906
コールローン及び買入手形	1,203,031	43,708	—	—
買現先勘定	7,916,877	65,286	—	—
債券貸借取引支払保証金	952,821	4,450	—	—
買入金銭債権 ^{(注)1}	3,301,649	735,646	163,273	295,468
有価証券	6,696,981	7,792,345	3,238,626	4,241,459
満期保有目的の債券	260,000	—	22,300	—
うち国債	260,000	—	—	—
地方債	—	—	22,300	—
社債	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	6,436,981	7,792,345	3,216,326	4,241,459
うち国債	3,388,590	2,780,300	450,200	413,700
地方債	2,912	45,000	179,449	12,775
社債	316,475	1,123,144	814,564	449,623
その他	2,729,003	3,843,901	1,772,112	3,365,361
貸出金 ^{(注)1(注)2}	20,175,801	34,357,622	13,576,456	6,525,453
外国為替 ^{(注)1}	2,051,624	2,911	—	—
リース債権及びリース投資資産	21,006	58,938	26,716	65,787
合計	101,442,144	43,086,946	17,010,487	11,129,075

(注)1.破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないものは含めておりません。当該金額の内訳は、買入金銭債権292百万円、貸出金328,111百万円、外国為替3,351百万円です。
2.期間の定めのないものは含めておりません。当該金額の内訳は、貸出金9,314,392百万円です。

(5)社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金 ^(注)	123,772,895	3,270,133	158,359	422,607
譲渡性預金	9,638,288	692,146	—	—
コールマネー及び売渡手形	2,920,539	—	—	—
売現先勘定	10,673,764	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	829,729	—	—	—
コマーシャル・ペーパー	1,409,249	—	—	—
借入金	10,025,120	6,906,266	3,398,911	1,490,487
外国為替	1,492,634	—	—	—
社債	876,372	833,534	161,870	71,270
信託勘定借	1,379,220	282,735	149,400	—
合計	163,017,813	11,984,817	3,868,541	1,984,365

(注)預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。なお、預金には、当座預金を含めております。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当行及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型及び非積立型の確定給付制度並びに確定拠出制度を設けております。

積立型の確定給付制度は、主に確定給付企業年金制度及び退職給付信託を設定している退職一時金制度であります。

非積立型の確定給付制度は、退職給付信託を設定していない退職一時金制度であります。

なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。また、従業員の退職等に対して割増退職金を支払う場合があります。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

退職給付債務の期首残高	1,040,167
勤務費用	31,817
利息費用	3,705
数理計算上の差異の発生額	13,464
退職給付の支払額	△51,192
過去勤務費用の発生額	—
企業結合の影響による増減額	△479
その他	△409
退職給付債務の期末残高	1,037,073

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

年金資産の期首残高	1,360,383
期待運用収益	41,742
数理計算上の差異の発生額	△110,284
事業主からの拠出額	10,636
退職給付の支払額	△40,693
企業結合の影響による増減額	—
その他	△2,551
年金資産の期末残高	1,259,233

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る資産及び退職給付に係る負債の調整表

(単位：百万円)

積立型制度の退職給付債務	△1,034,883
年金資産	1,259,233
	224,350
非積立型制度の退職給付債務	△2,190
連結貸借対照表に計上された資産と負債の純額	222,159
	(単位：百万円)
退職給付に係る資産	226,273
退職給付に係る負債	△4,114
連結貸借対照表に計上された資産と負債の純額	222,159

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

勤務費用	31,817
利息費用	3,705
期待運用収益	△41,742
数理計算上の差異の費用処理額	5,391
過去勤務費用の費用処理額	—
その他(臨時に支払った割増退職金等)	6,564
確定給付制度に係る退職給付費用	5,735

(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、主として「勤務費用」に含めて計上しております。

(5)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

過去勤務費用	—
数理計算上の差異	118,337
合計	118,337

(6)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

未認識数理計算上の差異	126,020
合計	126,020

(7)年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	58.0%
債券	13.6%
生保一般勘定	2.2%
その他	26.2%
合計	100.0%

(注)年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が36.7%含まれております。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の構成と、年金資産を構成する各資産の現在及び将来期待される長期の収益率を考慮して設定しております。

(8)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

①割引率	当行及び国内連結子会社	0.3%～0.3%
	在外連結子会社	2.3%～8.3%
②長期期待運用収益率	当行及び国内連結子会社	1.6%～4.0%
	在外連結子会社	2.3%～8.3%

3.確定拠出制度

当行及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、6,974百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

営業経費	7百万円
------	------

2. スtock・オプションの権利不行使による失効により利益として計上した金額

その他の経常収益	1,610百万円
----------	----------

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

連結子会社であるPT Bank BTPN Tbk

(1) スtock・オプションの内容

決議年月日	2015年3月26日	2015年3月26日	2016年4月29日
付与対象者の区分及び人数(人)	同社役員 16 同社使用人 309	同社役員 1 同社使用人 4	同社使用人 332
ストック・オプションの数(株) ^(注)	普通株式 141,575,000	普通株式 10,500,000	普通株式 56,645,000
付与日	2015年4月15日	2016年10月10日	2016年9月21日
権利確定条件	権利行使時に勤続	権利行使時に勤続	権利行使時に勤続
対象勤務期間	定めがない	定めがない	定めがない
権利行使期間	2017年 5 月 1 日から30日間 2017年 11 月 6 日から30日間 2018年 5 月 7 日から30日間 2018年 11 月 5 日から30日間 2019年 5 月 6 日から30日間 2019年 12 月 2 日から30日間	2017年 5 月 1 日から30日間 2017年 11 月 6 日から30日間 2018年 5 月 7 日から30日間 2018年 11 月 5 日から30日間 2019年 5 月 6 日から30日間 2019年 12 月 2 日から30日間	2018年 5 月 28日から30日間 2018年 12 月 17日から30日間 2019年 5 月 28日から30日間 2019年 12 月 19日から30日間 2020年 6 月 1 日から30日間 2020年 12 月 17日から30日間

(注)株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

① スtock・オプションの数^(注)

決議年月日	2015年3月26日	2015年3月26日	2016年4月29日
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	83,240,000	9,600,000	37,896,500
付与	—	—	—
失効	83,240,000	9,600,000	37,896,500
権利確定	—	—	—
未確定残	—	—	—
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	—	—	—
権利確定	—	—	—
権利行使	—	—	—
失効	—	—	—
未行使残	—	—	—

(注)株式数に換算して記載しております。

② 単価情報

決議年月日	2015年3月26日	2015年3月26日	2016年4月29日
権利行使価格(IDR)	4,000.00	4,000.00	2,617.00
行使時平均株価(IDR)	—	—	—
付与日における公正な評価単価(IDR)	1,408.90	1,408.90	712.81

(3) スtock・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

繰延税金資産	
貸倒引当金及び貸出金償却	125,744
税務上の繰越欠損金 ^(注)	56,470
有価証券	51,446
退職給付調整累計額	39,005
その他	103,696
繰延税金資産小計	
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 ^(注)	△5,300
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△70,406
評価性引当額小計	△75,707
繰延税金資産合計	300,655
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△424,358
繰延ヘッジ損益	△57,250
減価償却費	△52,125
その他	△122,379
繰延税金負債合計	△656,113
繰延税金資産(負債)の純額	△355,458

(注)税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	合計
税務上の繰越欠損金 ^(注)	28	703	5,916	49,821	56,470
評価性引当額	△1	△10	△4,005	△1,282	△5,300
繰延税金資産	26	693	1,910	48,538	51,169

(※)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2.当行の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

(単位：%)

当行の法定実効税率	30.62
(調整)	
評価性引当額	△2.15
事業税所得差額	△1.25
持分法による投資損益	△1.06
受取配当金益金不算入	△0.91
その他	0.49
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.74

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産関係について記載すべき重要なものではありません。

(関連当事者情報)

1.関連当事者との取引

関連当事者との取引について記載すべき重要なものではありません。

2.親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京、名古屋、ニューヨーク証券取引所に上場)

(企業結合等関係)

企業結合等関係について記載すべき重要なものではありません。

(1株当たり情報)

(単位：円)

1株当たり純資産額	77,913.33
1株当たり当期純利益	4,873.02
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	4,872.96

(注)1.1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	517,750百万円
普通株主に帰属しない金額	一百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	517,750百万円
普通株式の期中平均株式数	106,248千株

潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益調整額	△6百万円
(うち連結子会社及び持分法適用の関連会社の潜在株式による調整額)	(△6百万円)
普通株式増加数	一千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

2.1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	8,368,349百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	90,182百万円
(うち新株予約権)	(一百万円)
(うち非支配株主持分)	(90,182百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	8,278,166百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	106,248千株

(重要な後発事象)

重要な後発事象について記載すべきものではありません。

有価証券関係 (2019年度 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

有価証券の範囲等

- ※ 1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※ 2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	2020年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	1,806

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2020年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	260,079	260,286	206
	地方債	2,000	2,001	1
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	262,079	262,287	208
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	20,300	20,232	△67
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	20,300	20,232	△67
合計		282,379	282,519	140

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2020年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,281,861	1,005,257	1,276,604
	債券	5,197,614	5,159,687	37,927
	国債	2,871,225	2,865,395	5,829
	地方債	76,337	75,981	356
	社債	2,250,052	2,218,310	31,741
	その他	10,325,670	9,909,359	416,310
	小計	17,805,146	16,074,303	1,730,843
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	203,416	264,944	△61,527
	債券	4,869,781	4,886,191	△16,410
	国債	4,216,709	4,229,667	△12,957
	地方債	164,044	164,575	△530
	社債	489,027	491,949	△2,921
	その他	2,918,400	3,037,737	△119,336
	小計	7,991,598	8,188,873	△197,274
合計		25,796,745	24,263,176	1,533,568

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は26,403百万円(費用)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株 式	116,923
その他	268,778
合 計	385,702

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	2019年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	199,103	111,564	△10,831
債券	8,380,330	26,478	△4,384
国債	8,036,803	25,415	△4,349
地方債	92,994	295	△34
社債	250,532	766	△0
その他	14,795,363	120,672	△33,206
合計	23,374,797	258,714	△48,422

(6) 保有目的を変更した有価証券

記載すべき重要なものはありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

満期保有目的の債券及びその他有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は22,129百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

有価証券関係 (2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

有価証券の範囲等

- ※ 1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※ 2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	2019年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	471

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2019年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	280,247	281,136	888
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	280,247	281,136	888
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		280,247	281,136	888

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2019年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	3,051,638	1,204,569	1,847,069
	債券	8,094,287	8,031,868	62,419
	国債	5,547,344	5,523,497	23,847
	地方債	89,608	88,868	740
	社債	2,457,334	2,419,502	37,831
	その他	5,577,902	5,381,566	196,336
	小計	16,723,829	14,618,004	2,105,824
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	155,780	183,148	△27,368
	債券	889,443	891,497	△2,053
	国債	686,982	687,573	△591
	地方債	9,555	9,560	△4
	社債	192,906	194,363	△1,457
	その他	5,204,367	5,333,304	△128,937
	小計	6,249,590	6,407,949	△158,358
合計		22,973,419	21,025,954	1,947,465

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は12,277百万円(費用)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株 式	113,887
その他	242,113
合 計	356,001

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	2018年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	201,875	92,551	△1,063
債券	8,070,485	11,418	△2,154
国債	7,797,751	10,798	△2,065
地方債	80,253	67	△71
社債	192,480	551	△17
その他	9,580,861	49,165	△36,953
合計	17,853,222	153,136	△40,171

(6) 保有目的を変更した有価証券

記載すべき重要なものはありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

満期保有目的の債券及びその他有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は7,653百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

金銭の信託関係

(2019年度 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(1)運用目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	2020年3月末		
	連結貸借 対照表 計上額	取得原価	差額
その他の 金銭の信託	0	0	—

その他有価証券評価差額金

(2019年度 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2020年3月末
評価差額	1,559,942
その他有価証券	1,559,942
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	431,217
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,128,725
(△)非支配株主持分相当額	3,938
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券 に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	1,021
その他有価証券評価差額金	1,125,808

(注)1.時価ヘッジの適用により損益に反映させた額26,403百万円(費用)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。

2.その他有価証券の評価差額は時価を把握することが極めて困難な外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

金銭の信託関係

(2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(1)運用目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	2019年3月末		
	連結貸借 対照表 計上額	取得原価	差額
その他の 金銭の信託	0	0	—

その他有価証券評価差額金

(2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2019年3月末
評価差額	1,959,748
その他有価証券	1,959,748
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	530,923
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,428,824
(△)非支配株主持分相当額	1,444
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券 に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△886
その他有価証券評価差額金	1,426,493

(注)1.時価ヘッジの適用により損益に反映させた額12,277百万円(費用)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。

2.その他有価証券の評価差額は時価を把握することが極めて困難な外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	21,076,337	4,765,699	△27,290	△27,290
	買建	14,737,369	2,199,856	27,550	27,550
	金利オプション				
	売建	6,750,245	4,521,273	△11,465	△11,465
店頭	買建	158,524,331	67,831,291	48,263	48,263
	金利先渡契約				
	売建	62,823,188	4,805,635	132,247	132,247
	買建	61,810,031	3,914,222	△132,242	△132,242
	金利スワップ	429,270,385	330,121,475	555,067	555,067
	受取固定・支払変動	187,553,703	147,274,353	9,370,884	9,370,884
	受取変動・支払固定	182,671,734	142,402,176	△8,827,148	△8,827,148
	受取変動・支払変動	59,023,943	40,423,939	3,839	3,839
	金利スワップション				
	売建	4,372,478	2,390,061	61,355	61,355
	買建	4,436,926	2,557,704	△46,030	△46,030
	キャップ				
	売建	58,287,287	35,028,868	△27,476	△27,476
	買建	13,906,264	9,743,927	612	612
	フロアー				
	売建	3,319,268	3,163,036	△33,839	△33,839
	買建	1,944,857	1,774,324	21,349	21,349
	その他				
	売建	1,723,114	1,045,482	△2,327	△2,327
	買建	6,906,532	4,948,922	74,235	74,235
合計				640,010	640,010

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	4,500	—	△7	△7
店頭	買建	—	—	—	—
	通貨スワップ	51,848,896	38,266,317	△214,884	△195,349
	通貨スワップション				
	売建	229,152	45,273	△429	△429
	買建	789,974	577,080	1,766	1,766
	為替予約	79,374,778	10,019,864	△206	△206
	通貨オプション				
	売建	2,511,415	790,144	△53,645	△53,645
	買建	2,352,607	649,336	66,150	66,150
合計				△201,256	△181,721

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	318,404	—	△2,603	△2,603
	買建	286,249	—	2,183	2,183
	株式指数オプション				
	売建	—	—	—	—
店頭	買建	5,000	—	2	2
	有価証券店頭オプション				
	売建	221,763	30,101	△7,012	△7,012
	買建	191,662	—	7,768	7,768
合計				337	337

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,059,348	—	△14,871	△14,871
	買建	1,077,458	—	15,881	15,881
	債券先物オプション				
	売建	3,000	—	2	2
店頭	買建	—	—	—	—
	債券店頭オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	72,858	71,357	△12	△12
合計				1,000	1,000

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデルにより算定しております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	3,090	—	171	171
	買建	4,044	—	△379	△379
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	80,464	47,610	18,209	18,209
	変動価格受取・固定価格支払	76,311	44,804	△15,201	△15,201
	変動価格受取・変動価格支払	1,363	1,347	0	0
	商品オプション				
	売建	3,153	2,199	△529	△529
	買建	1,307	532	△89	△89
合計				2,181	2,181

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。

3.商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	2020年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	192,621	159,328	△2,342	△2,342
	買建	387,625	321,040	5,067	5,067
合計				2,724	2,724

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2020年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他の有価証券、預金、譲渡性預金等の有利利息の金融資産・負債			
	売建		435,240	—	43
	買建		1,142,505	—	269
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動 受取変動・支払固定		36,700,930 14,621,209	28,992,026 13,546,428	697,034 △507,196
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップション				
	売建 買建		151,789 —	151,789 —	26,130 —
金利スワップの特例処理	金利スワップ	貸出金 借入金	409,908	390,290	△13,781
合計	受取変動・支払固定		71,880	55,700	(注)3
					202,501

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は「注記事項 金融商品関係 2.金融商品の時価等に関する事項」の当該借入金の時価に含めて記載しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2020年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他の有価証券、預金、外国為替等	9,966,619	5,490,043	64,752
	為替予約		39,426	—	723
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	貸出金、その他の有価証券	254,494	208,359	18,015
合計					83,491

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2020年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 金利受取・株価指数変化率支払	その他の有価証券	41,556	41,556	8,861
合計					8,861

(注) 時価の算定

割引現在価値により算定しております。

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	30,533,013	3,061,730	△16,015	△16,015
	買建	28,898,271	5,902,494	16,633	16,633
	金利オプション				
	売建	3,452,722	3,286,192	△1,929	△1,929
店頭	買建	130,788,808	65,425,283	24,009	24,009
	金利先渡契約				
	売建	26,319,818	1,420,320	12,029	12,029
	買建	28,150,897	1,305,595	△12,572	△12,572
	金利スワップ	410,372,922	323,711,048	288,870	288,870
	受取固定・支払変動	181,019,374	142,155,010	2,517,766	2,517,766
	受取変動・支払固定	173,925,927	139,510,567	△2,235,385	△2,235,385
	受取変動・支払変動	55,404,477	42,022,327	△1,127	△1,127
	金利スワップション				
	売建	3,744,422	2,417,827	△3,498	△3,498
	買建	3,245,818	2,348,653	16,234	16,234
	キャップ				
	売建	48,005,582	31,812,644	△57,654	△57,654
	買建	10,945,207	7,906,304	6,360	6,360
	フロアー				
	売建	831,796	659,715	△2,633	△2,633
	買建	1,196,804	719,639	3,786	3,786
	その他				
	売建	1,519,045	772,769	△3,053	△3,053
	買建	7,769,837	6,281,874	31,891	31,891
合計				302,457	302,457

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	2,833	—	21	21
	買建	1,109	—	0	0
店頭	通貨スワップ	43,597,879	32,086,742	40,840	34,837
	通貨スワップション				
	売建	341,280	256,973	△628	△628
	買建	817,560	708,288	1,484	1,484
	為替予約	80,511,550	11,018,585	21,781	21,781
	通貨オプション				
	売建	2,060,828	728,015	△8,624	△8,624
	買建	1,916,405	573,298	19,968	19,968
合計				74,844	68,841

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	267,437	—	684	684
	買建	235,057	—	△779	△779
	株式指数オプション				
	売建	—	—	—	—
店頭	買建	8,587	—	19	19
	有価証券店頭オプション				
	売建	227,601	227,601	△4,349	△4,349
	買建	198,864	198,864	6,892	6,892
	合計			2,467	2,467

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,939,537	—	△28,023	△28,023
	買建	1,673,557	—	26,668	26,668
	債券先物オプション				
	売建	121,308	—	△298	△298
店頭	買建	35,308	—	113	113
	債券店頭オプション				
	売建	110,000	—	△263	△263
	買建	199,736	83,476	676	676
	合計			△1,127	△1,127

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデルにより算定しております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	14,158	—	326	326
	買建	14,664	—	△296	△296
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	91,437	42,874	△1,163	△1,163
	変動価格受取・固定価格支払	89,660	41,086	3,089	3,089
	変動価格受取・変動価格支払	2,018	1,461	△10	△10
	商品オプション				
	売建	7,918	2,678	△401	△401
	買建	5,796	778	12	12
合計				1,556	1,556

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。

3.商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	101,598	86,713	874	874
	買建	228,836	177,697	△1,905	△1,905
合計				△1,031	△1,031

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他の有価証券、預金、譲渡性預金等の有利利息の金融資産・負債	2,220,000	2,220,000	△149
	売建		—	—	—
	買建		—	—	—
	金利スワップ		33,822,621	30,249,753	252,739
	受取固定・支払変動 受取変動・支払固定		14,441,731	12,969,450	△281,999
金利スワップの特例処理	金利スワップ				
	売建 買建		157,065 —	157,065 —	3,441 —
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ 受取変動・支払固定	貸出金	301,178	291,450	△3,274
金利スワップの特例処理	金利スワップ 受取変動・支払固定	借入金、社債	68,690	66,690	(注)3
合計					△29,242

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「注記事項 金融商品関係 2.金融商品の時価等に関する事項」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他の有価証券、預金、外国為替等	7,828,136	5,000,432	△22,720
	為替予約		2,772	—	△218
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	貸出金、その他の有価証券	186,032	131,640	5,056
合計					△17,882

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 金利受取・株価指数変化率支払	その他の有価証券	48,510	48,510	1,826
合計					1,826

(注) 時価の算定

割引現在価値により算定しております。

セグメント情報等

1.セグメント情報

(1)報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会や経営会議が、経営資源の配分の決定や業績評価のために、定期的に経営成績等の報告を受ける対象となっているものであります。

それぞれの報告セグメントが担当する業務は以下のとおりであります。

ホールセール部門：国内の大企業及び中堅企業のお客さまに対応した業務
 リテール部門：国内の個人及び中小企業のお客さまに対応した業務
 国際部門：海外の日系・非日系企業等のお客さまに対応した業務
 市場営業部門：金融マーケットに対応した業務
 本社管理：上記各部門に属さない業務等

(2)報告セグメントごとの利益又は損失の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。が、複数の部門の協働により取引を獲得した際には、社内管理会計の取扱いに則り、実際の収益額に基づき算定した金額を協働した部門に計上しております。

なお、資産につきましては、事業セグメント別の管理を行っておりません。

(3)報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	2019年度					
	ホールセール部門	リテール部門	国際部門	市場営業部門	本社管理等	合計
連結粗利益	636,169	371,139	680,545	426,449	△297,759	1,816,544
経費	△242,126	△336,728	△343,858	△64,578	△70,401	△1,057,690
持分法による投資損益	—	1,959	33,912	—	△11,188	24,683
連結業務純益	394,044	36,371	370,600	361,871	△379,349	783,536

(注)1.損失の場合には、金額頭部に△を付しております。

2.「本社管理等」には、内部取引として消去すべきものを含めております。

(単位：百万円)

	2018年度					
	ホールセール部門	リテール部門	国際部門	市場営業部門	本社管理等	合計
連結粗利益	726,329	451,688	690,640	321,483	△411,213	1,778,926
経費	△298,346	△378,538	△318,902	△49,311	35,687	△1,009,410
持分法による投資損益	—	1,609	19,800	—	23,363	44,772
連結業務純益	427,982	74,759	391,538	272,172	△352,163	814,288

(注)1.損失の場合には、金額頭部に△を付しております。

2.「本社管理等」には、内部取引として消去すべきものを含めております。

(4)報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	2019年度
連結業務純益	783,536
その他経常収益(除く持分法による投資利益)	171,639
その他経常費用	△184,685
連結損益計算書の経常利益	770,491

(注)損失の場合には、金額頭部に△を付しております。

(単位：百万円)

利益	2018年度
連結業務純益	814,288
その他経常収益(除く持分法による投資利益)	160,424
その他経常費用	△80,212
連結損益計算書の経常利益	894,501

(注)損失の場合には、金額頭部に△を付しております。